

報告者について

氏名(所属専攻・職名)	小島 道裕 (日本歴史研究専攻・教授)
略歴	<p>学歴</p> <p>京都大学文学研究科博士課程 文学博士</p> <p>職歴</p> <p>京都大学文学部助手を経て、</p> <p>1989年より国立歴史民俗博物館</p> <p>1999年より総研大日本歴史研究専攻併任</p> <p>2008～2009年度日本歴史研究専攻専攻長</p>
専門分野	日本中近世史、博物館教育
現在の研究テーマ	洛中洛外図屏風、戦国・織豊期の城下町など

報告内容について

題名	歴史を展示するということ
概要	<p>博物館はそれぞれ扱う対象がありますが、歴史というのは、特に難しいテーマです。それは実体ではない「歴史像」ですし、特に「国の歴史」はどう描いたらよいのか、「国定教科書」にならないために、歴博は設立当初から考え続けてきました。ひとつの答えは、歴史像は資料から作られるのですから、資料を元に「一緒に考える」展示にする、ということです。</p> <p>歴史像は多様なのが当然で、「正しい歴史」というものがあるわけではありません。立場によってさまざまな歴史の見方があります。国の歴史を取り上げている他国の博物館を見ても、それぞれの課題に向き合っていることが分かります。</p> <p>「日本の歴史と文化」はどう展示したらよいのでしょうか？博物館はどんなメッセージを発信したらよいのでしょうか？そんなことを、一緒に考えてみたいと思います。</p>